

男女共生ネットワークニュース

ともに生きる社会をめざして

2020 春号 No.60

発行：秋田市生活総務課女性活躍推進担当
(5、8、11、2月発行)

住所 〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号
電話 018-888-5650 Fax 018-888-5651
E-mail ro-ctmn@city.akita.akita.jp またはこちら→



※定期・メール配信については当課までご連絡ください。HP <http://www.city.akita.akita.jp/city/ct/ge/danijo/>

秋田大学パイロットリサーチプロジェクト報告 秋田市の女性活躍推進に関する状況の調査と分析

秋田大学 教育文化学部 准教授 臼木智昭氏

本市における女性の活躍推進に向け、今年度、秋田大学教育文化学部と連携して実施しました。調査結果は11月の女性の活躍推進シンポジウム2019のほか、2月の庁内報告会で発表予定です。一部抜粋したものをお伝えします。

【統計による秋田市内企業の特徴の分析】

利用データ：「平成29年就業構造基本調査」 対象：全国、東北6県、秋田市

Q.秋田市の女性の有業率は？

A. **67.8%** 概ね全国平均レベル。
(全国平均68.5%)

Q.そのうち、育児をしている割合は？

A. **72.1%** 全国平均を大きく上回る状況。
(全国平均68.5%)

Q.育児休業制度を利用した人は？

A. **33.3%** 東北各県と比較しても高い状況。

秋田県	青森県	岩手県	宮城県	山形県	福島県	全国
30.8%	29.8%	29.3%	31.5%	25.9%	28.8%	29.4%

育児をしながら仕事を続けやすい職場・家庭環境が定着していると考えられます。

Q.女性の管理職比率は？

A. 全国平均と比較して低位な状況。

年代別に見ると？**M字カーブ(※)の落込みは**全国と比較して**低い**状況です。特に、20～50代前半の有業率は**7割**を超えています。

年代別にみた女性の有業率



※M字カーブとは...日本において女性の労働力率を年齢階級別にグラフ化した際に表れる、アルファベットの「M」の形に似た曲線のこと。20代で働き始め、30代で出産・育児に専念し、子育てが一段落した40代で再び職に就くという、日本女性の働き方の特徴を表すと言われている。

それはなぜ？

正規雇用の割合が**43.9%**と高く、全国平均を上回ることが関係していると考えられます。

50代後半以降の有業率の低下が遠因と推察されます。

人材確保が困難となる中、**女性人材の活用は市内企業の課題**です。

【アンケート調査からみた男女の就業や役割に関する若者の意識】

対象：秋田大学教育文化学部地域文化学科 1～3年生 216人(男性73人、女性143人) 期間：2019年5月

Q.女性が仕事をし続けることは？

A. **74.0%**が賛成。
男女間でも大きな差意はみられません。

Q.「女性は家庭を守るべき」という考えは？

A. **67.6%**が否定的。
一方、男性は31.5%が賛成。

Q.女性も男性も

家事・育児・介護に関わるべきか？

A. 全体で**96.8%**が肯定的。
特に女性は男性の関与を期待しています。

〈理想とする女性の仕事と家庭のあり方について〉

●「結婚や出産まで仕事を行い、子育てが一段落してから働く」というキャリアを理想とする割合は全体で**59.3%**

●「家事や育児との両立」を理想とする女性は**33.6%**

●「乳幼児期は女性は育児に専念すべき」と考える割合は**57.9%**。子どもの成長に応じた、男女の役割分担の必要性を感じている人が多いと推察されます。

女性の就業には肯定的、男女の役割分担には否定的で、女性活躍に対する理解は浸透しています。

一方、乳幼児期には育児に専念すべきとの意見も多く、

女性の就業継続の面で、育児支援の拡充が課題です。

2019年ジェンダーギャップ指数

日本が110位から121位へ

(153カ国中、過去最低)

ジェンダーギャップ指数とは、世界経済フォーラムが毎年発表している、世界男女格差指数です。各国を対象に、政治・経済・教育・健康の4部門について、男女にどれだけの格差が存在しているか分析してスコア化し、そのスコアを元に各国の男女平等の順位をつけます。(指数は女性/男性で算出、平等なら1、不平等なら0)

年度	2018		2019	
	指数	順位	指数	順位
政治	0.081	125位	0.049↓	144位↓
経済	0.595	117位	0.598↑	115位↑
教育	0.994	65位	0.983↓	91位↓
健康	0.979	41位	0.979→	40位↑
総合	0.662	110位	0.652↓	121位↓

日本が低い要因は、**政治や経済分野の女性リーダーの少なさ**もありますが、「**男は仕事、女は家庭**」という**固定的性別役割分担意識**が根強くあることも一因です。この考え方を払拭するために、秋田市でも「第5次男女共生社会への市民行動計画」に基づき、様々な事業を行っています。

～各地の取り組みを学び秋田市に～

WITKyoto参加報告

WITとは、「WORK & WOMEN IN INNOVATION SUMMIT」の略で、「あらゆる分野における女性活躍」をテーマに、4年目の今年は1月31日(金)に京都で開催されました。

日本の女性は読解力や数的思考力が高く、共同作業による問題解決能力もグループであれば数値が上がると調査報告がありました。そのため共感力やコミュニケーション力が高く、柔軟性があると推測されています。この強みを活かして、女性活躍のために制度を整えるとともに、個人の能力を伸ばす環境づくりや、働きがいのある職場づくりの重要性を学びました。

3月8日は国際女性デー

3月7日(土) **受付中**
中央市民SC 洋室4
(秋田市役所3階)

国際女性デーとは、女性への差別をなくし、地位の向上を目的に国連が1975年に制定した、国際デーです。

秋田市では、国際女性デーPR講座を開催します。

①海外のトピックでジェンダーを考える 10:00～11:30

講師 櫻井梢さん(グローバル教育スペクトラム主宰)
ジェンダーは「社会的差別」と訳されます。海外の話題からジェンダーを考え、身の回りにあるジェンダーについて話し合います。

②ミモザのスワッグをつくる 11:40～12:40

講師 小野舞子さん(小野装花店主宰)
国際女性デーの象徴の花として扱われるミモザでミニスワッグを作ります。

①受講者のうち希望者が対象
材料費 1,500円



不定期連載

男女共同参画推進の中心的役割を担う
あきたF・F推進員
おすすめ本紹介

第1回

小山田 聖子さん
(オリジナルスマイル研究所)



『未来を変える目標SDGsアイデアブック』

編著・発行 一般社団法人 Think the Earth

SDGsという言葉をご存知でしょうか。2030年までに、世界のすべての国であらゆる垣根を超えて、より良い未来を作ろうと2015年に国連で決めた17個の持続可能な開発目標のことで、すでに世界各国で様々な取り組みが行われています。未来を考えると、今の気候変動や国家の貧富差、エネルギー問題、ジェンダー格差、紛争など様々な解決すべき問題が浮き彫りになります。一つの国、一人の力だけではなかなか解決できない問題が山積みですが、国家だけでなく企業や自治体、個人、誰もが未来のために考え参加する仕組みが必要です。

この本では、あらゆる分野ですでに協力し合い、様々な方法で未来に向けてスタートしていることがたくさん紹介されています。わかりやすい文章で、漫画や写真で構成されているので子供たちと一緒に読むこともできます。秋田の未来はもちろん、視野を広げ、世界の未来を明るく変えていくSDGsを自分事として考える入門編としてこの一冊をお勧めします。

社会人ブラッシュアップ講座2

受付中

〈メディア〉社会の現在を考える2020

日時 2月15日(土) 10:30～12:00
会場 中央市民SC 洋室4(秋田市役所3階)
定員 40名
講師 小松田儀貞さん(秋田県立大学准教授)
受講 無料

昨年の出来事などを男女共生、多様性をみとめる社会をめざす視点で見るとともに、情報環境の課題と可能性について考えます。

令和2年度

「男女共同参画週間」

令和2年
2月28日まで

キャッチフレーズ募集!

毎年6月23日～6月29日は「男女共同参画週間」です。内閣府では、令和2年度男女共同参画週間のキャッチフレーズについて一般公募を行っています。選ばれたキャッチフレーズがポスターになり、全国で活用されます。

【募集テーマ】すべての人が性別にかかわらず、自分らしい充実した人生を実現する。

詳細は内閣府男女共同参画局サイトをご覧ください。
<http://www.gender.go.jp/public/week/week.html>